

「いにしえ夢街道推進事業」実施計画



平成23年3月

徳島県教育委員会

はじめに

少子高齢化、グローバル化、IT技術の進化等により、わが国社会は大きく変質しつつあり、地域の自然、歴史や文化を示す各種の文化財に対する国民の関心が高まっています。また、平成の大合併による地域再編が進む中、地域のアイデンティティを確認し、地域づくりを進めるために、文化財を活用しようという動きが広まっています。

こうしたなか、平成19年10月の文化庁『文化審議会文化財分科会企画調査会報告書』は、一定の関連性を持った文化財を総体として把握し、総合的に活用していくこと、また、文化財に対する親しみを深め、文化財保護にかかわる人材を育成することにより、社会全体で文化財を継承・活用していくとの方針を示しました。

徳島県教育委員会が関係6市町と連携し、平成18年度より取り組んでまいりました「いにしえ夢街道推進事業」は、史跡の広域的な活用や文化財の情報発信、文化財に関わる人材の育成を図る事業であり、国の動きに先駆けたものとして、他の都道府県からも注目されてまいりました。

事業は平成20年度に策定いたしました「いにしえ夢街道基本計画」を基に進めてまいりましたが、この度、県並びに関係6市町が取り組む具体策を示す「いにしえ夢街道実施計画」を策定いたしました。

県教育委員会といたしましては、今後、関係市町と連携し、「いにしえ夢街道実施計画」に基づいて文化財の整備・活用を進め、魅力ある地域づくりに寄与してまいりたいと考えております。県民の皆様の御理解・御協力をいただけますよう、お願いいたします。

平成23年3月

徳島県教育委員会

教育長 福家 清司

例 言

1 徳島県教育委員会は、平成18年度から22年度まで、国庫補助を受けて「いにしえ夢街道推進事業」を実施した。本書は、平成20年度から22年度の事業報告と、県及び関係市町の今後の取り組み方針を示すものである。

2 「いにしえ夢街道推進事業」では、史跡の広域活用を図るため、国史跡を中心として、県内に時代・テーマの異なる活用ゾーンを設定した。活用ゾーンは次のとおりである。

「中世から近世へ 室町ロマンから藩政へのみち」(徳島市・藍住町)

「阿波のまほろば 古代政治のみち」(徳島市・石井町)

「豪族の奥津城 古墳から寺院へのみち」(美馬市)

「阿波の入り口 古代王権のみち」(鳴門市・板野町)

3 本事業の事務局は県教育委員会教育文化政策課(21年度まで文化財課)においた。また、「いにしえ夢街道県民会議」を設置し、事業全般にわたり指導・助言をいただいた。

「いにしえ夢街道県民会議」委員は次のとおりである。(五十音順)

専門委員

木原 克司(副会長・鳴門教育大学教授)	近藤 光男(徳島大学大学院教授)
白石太一郎(会長・大阪府立近つ飛鳥博物館長)	仁木 宏(大阪市立大学大学院教授)
平井 松午(徳島大学教授)	三宅 正弘(武庫川女子大学准教授)
藪田 貫(関西大学教授)	和田 萃(京都教育大学名誉教授)

県民委員

泉 隆治	岩崎 繁夫	逢坂 俊男	小笠 功	沖野 勲	斎藤 照彦
佐藤 義忠	渋谷 雅子	杉山 博	竹本 弘子	津田 篁史	坪井 三尚
寺岡健二郎	中村 英雄	原田 宏保	正木 博之	正木 文子	矢金 満
矢上 堯	山口 道雄				

事務局(20年度～22年度)は次のとおりである。

総括	課長	竹原 紀幸
	主幹	菅原 康夫(平成20・21年度)
	課長補佐・副課長	西浦 敏文(平成20・21年度)
	副課長	山中久美子(平成22年度)
	課長補佐	石井 伸夫(平成22年度)
担当	係長	石井 伸夫(平成20年度)
	係長	山田 正之(平成21・22年度)
	社会教育主事	辻 佳伸
	社会教育主事	木村 哲也(平成20・21年度)
	社会教育主事	前田 綾博
	主事	西本 和哉(平成22年度)
事務総括	主査兼係長	多田 勝重(平成20・21年度)
	係長	小濱由美子(平成22年度)
	主任	郡 貴子

いにしえ夢街道推進事業について

目 的

本事業は、国指定史跡を中心に周辺の埋蔵文化財や資料館・博物館をつなぎ、県民の参加・参画と協働により活用価値を高め、文化財の発信を目的に実施するものです。

時代・テーマの異なる4つのゾーンを設定し、広域的な整備と共に文化財情報の発信や人材育成事業を行い、文化財を活かした魅力ある地域づくり・交流の促進による県域の活性化に寄与することを目指します。

豪族の奥津城

古墳から寺院へのみち

美馬市

段の塚穴・野村八幡古墳・郡里廃寺跡
坊僧窯跡
美馬郷土博物館



段の塚穴



阿波国分尼寺跡

阿波の入り口

古代王権のみち

鳴門市～板野町

大代古墳・宝幢寺古墳・天河別神社古墳群
萩原墳墓群・愛宕山古墳
徳島県立埋蔵文化財総合センター
板野町歴史文化公園



大代古墳

阿波のまほろば

古代政治のみち

徳島市～石井町

山ノ神古墳・矢野の古墳・阿波国分尼寺跡
阿波国分寺跡・阿波国造墓碑・観音寺遺跡
石井廃寺跡
徳島市立考古資料館



徳島城跡

中世から近世へ

室町ロマンから藩政へのみち

藍住町～徳島市

勝瑞城館跡・守護町勝瑞遺跡
徳島城跡・徳島藩主蜂須賀家墓所・徳島城下町遺跡
徳島県立博物館・徳島市立德島城博物館

いにしえ夢街道活用ゾーン

- 埋蔵文化財活用のための「群」＝活用ゾーンを設定
- 文化財を活かした地域づくりを支援
- 活用ゾーン相互の交流
- 県域全体の活性化

いにしえ夢街道実施計画（目次）

第1章 いにしえ夢街道推進事業について

I 「いにしえ夢街道推進事業」の趣旨・目的

- 1 徳島県の国史跡について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 文化財の保護・活用に関する国の方針・・・・・・・・・・ 1
- 3 「いにしえ夢街道推進事業」の目的・・・・・・・・・・ 2

II 「いにしえ夢街道推進事業」の経過

- 1 「いにしえ夢街道県民会議」・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2 個別事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

第2章 実施計画

I 活用要素・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

II 活用ルート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

III 整備計画

- 1 拠点整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
- 2 動線整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
- 3 ソフト事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
- 4 年次計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38

第1章 「いにしえ夢街道推進事業」について

I 「いにしえ夢街道推進事業」の趣旨・目的

1 徳島県の国史跡について

(1) 指定の状況

「いにしえ夢街道推進事業」を始めた平成18年時点で、県内の国指定史跡は次の7件であった（指定順）。

段の塚穴（美馬市）、阿波国分尼寺跡（石井町）、郡里庵寺跡（美馬市）、
丹田古墳（東みよし町）、勝瑞城館跡（藍住町）、徳島藩主蜂須賀家墓所
（徳島市）、徳島城跡（徳島市）

平成18年度時点では、7件の国史跡のうち5件で公有地化を含む整備事業が進められ、その後も整備事業の増加が予測された。そこで、その積極的活用を図るため、「いにしえ夢街道推進事業」においては、整備事業を実施または計画している国指定史跡を中心に、県下に4つの活用ゾーンを設定した。

なお、事業開始後、平成21年2月に「波野丸山古墳」（徳島市）、22年8月に「阿波遍路道～鶴林寺道・太龍寺道・いわや道～」(阿南市・勝浦町)が指定された。

また、国史跡候補としては、鳴門市が指定に向けた取り組みを進めている「鳴門・板野古墳群」（鳴門市・板野町）及び「板東俘虜収容所跡」（鳴門市）が挙げられる。さらに、県が平成18年度から22年度にかけて取り組んだ中世城館総合調査事業の結果、「一宮城跡」（徳島市）、「脇城跡」（美馬市）、「海部城跡」（海陽町）も候補と考えられ、今後、県及び関係市町が連携して、指定に向けて取り組んでいく必要がある。

(2) 史跡整備の枠組み

本県の史跡整備事業は、すべて市町が主体となって、国補事業（補助率1/2）として実施している。県は国・県・市町の役割分担に基づき、国補残額の1/2以内（総事業費の1/4以内）を補助している。

2 文化財の保護・活用に関する国の方針

国は文化財の活用と地域振興について、平成19年2月に「文化芸術の振興に関する基本的な方針」を閣議決定し、10月には、文化審議会文化財分科会企画調査会の「報告書」において、文化財の保護、保存と活用のための新たな視点、施策を示した。

その中心となる考え方は、「一定の関連性を持った文化財の総体的把握と保護」、「文化財の総合的な保存活用」であり、文化財に対する親しみを深め、文化財保護にかかわる人材を育成することにより、社会全体で文化財を継承・活用していこうという方針を明確にしている。

3 「いにしえ夢街道推進事業」の目的

「いにしえ夢街道推進事業」は、このような本県の国史跡をめぐる状況、文化財の保護・活用に関する国の方針を踏まえ、あるいは国の方針を先取りする形で計画・実施した。具体的には、整備事業を実施または計画している国指定史跡を中心として、県・市町村史跡、周辺の様々な指定文化財、埋蔵文化財を含む未指定文化財、各地の博物館、資料館等をリンクさせ、夢のあるストーリーを持つ「群」として位置づけ、県内に4つの活用ゾーンを設定した。活用ゾーンは次のとおりである。

- (1) 中世から近世へ ー室町ロマンから藩政へのみちー（藍住町・徳島市）
- (2) 阿波のまほろば ー古代政治のみちー（徳島市・石井町）
- (3) 豪族の奥津城 ー古墳から寺院へのみちー（美馬市）
- (4) 阿波の入り口 ー古代王権のみちー（鳴門市・板野町）

4つの活用ゾーンは、時代やテーマが異なるものとし、広域的な整備・活用とともに、文化財の情報発信や人材育成事業を目指すこととした。また、県民の参加・参画・協働によって活用価値を高め、文化財を活かした魅力ある地域づくり、交流の促進による本県の活性化を目指すことを目的とした。

II 「いにしえ夢街道推進事業」の経過

1 「いにしえ夢街道県民会議」

「いにしえ夢街道基本構想」を策定するための合議機関として、平成18年度に「いにしえ夢街道推進委員会（以下 推進委員会）」を発足させた。推進委員会は、県が委嘱した学識経験者（専門委員）のほか、県・市町職員及び専門知識をもつ協力者で構成し、平成20年6月、いにしえ夢街道の取り組みの基本的方向を示す「いにしえ夢街道基本計画（以下「基本計画」）」を策定した。

「基本計画」では、構想の実現に向けた課題の一つとして、住民参画を促進し、住民の声や意見を反映することが必要とされた。そのため、推進委員会のメンバーに加え、4ゾーンで文化財保護活動に取り組んでいる団体の代表者や、アワコウコ楽サポーター養成講座の修了者を県民委員に委嘱し、「いにしえ夢街道県民会議（以下 県民会議）」を発足させた。県民会議は、平成20年度に4ゾーンごとの部会を開催し、平成21年度・22年度には、総会及び部会を開催し、議論を重ねた。



20年度総会



21年度総会

いにしえ夢街道県民会議設置要綱

(設置目的)

第1条 いにしえ夢街道推進事業（以下「推進事業」という。）全般にわたり、指導・助言を行うため、いにしえ夢街道県民会議（以下「県民会議」という）を設置する。

(組織)

第2条 県民会議は、学識経験者から徳島県教育委員会（以下「教育委員会」という。）が委嘱する専門委員及び県内で文化財の保護・活用に携わる者から教育委員会が委嘱する県民委員をもって構成する。

2 県民会議の諸会議には、上記委員に加え、推進事業に関係する県及び市町の職員並びに専門的知識を持つ協力者の出席を求めることができる。

(任期)

第3条 委員の任期は、平成23年3月31日までとする。

(役員)

第4条 県民会議には、会長及び副会長を置き、専門委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、県民会議を代表し、会務を総括する。

3 会長に事故あるときは、副会長がその職務を代行する。

4 県民会議は、会長が招集し、その議長となる。

(部会)

第5条 県民会議には、部会を置く。

2 設置する部会は、次のとおりとする。

第1部会（室町ロマンから藩政へのみち）

第2部会（古代政治のみち）

第3部会（古墳から寺院へのみち）

第4部会（古代王権のみち）

3 部会に所属する委員は、会長が指名する。

(部会長)

第6条 部会には、部会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 部会長は、部会を代表し、会務を総括する。

3 部会長に事故あるときは、あらかじめ部会長が指名する者が、その職務を代行する。

4 部会の会議は、部会長が招集し、その議長となる。

(庶務)

第7条 県民会議の庶務は、教育委員会文化財課において行う。

(雑則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、県民会議の運営に必要な事項は会長が定める。

附 則

この要綱は、平成20年6月1日から施行する。

県民会議の開催状況

平成20年度

7月28日(月)	第3部会
11月21日(金)	第4部会
3月3日(火)	第2部会
3月18日(水)	第1部会

主な協議題

寺町(美馬市)の活性化, 脇町と美馬の交流
鳴門板野古墳群の指定後の活用, 大谷・板東
エリアを訪れる人へのアピール
「国府のみち」「山辺のみち」
各エリアの課題と今後の活動, 広域活用に向
けての取り組み



20年度第1部会



21年度第2部会

平成21年度

6月8日(月)	総会
8月21日(金)	第4部会
9月28日(月)	第2部会
12月7日(月)	第3部会
3月5日(金)	第1部会

主な協議題

会長・副会長の選出, 今後の事業の進め方
鳴門・板野の連携
徳島市(国府町)と石井町の連携
脇町エリアと美馬エリアの交流
エリア間の連携
※各部会共通
動線整備, 案内板, ロゴマーク,
活用マップ

平成22年度

7月5日(月)	第3部会
9月22日(水)	第4部会
9月27日(月)	第1部会
10月6日(水)	第2部会
12月9日(木)	総会

主な協議題

※各部会共通
動線整備, 案内標識, 活用マップ,
実施計画
ロゴマーク審査, 実施計画



22年度第3部会



21年度第4部会

2 個別事業

「いにしえ夢街道推進事業」では, 企画調整, 情報発信, 交流促進, 人材育成の4分野で, 9つの事業を実施した。主な事業の実施状況は, 次のとおりである。

①夢街道シンポジウム

平成20年度 「古墳から寺院へのみち～地域を動かす文化財～」
日時：平成21年1月18日（日） 会場：脇町劇場オデオン座

参加者：150人

講演「終末期古墳と古代寺院」 奈良芸術大学 前園実知雄氏

報告「郡里廃寺跡の調査と文化財の整備」 美馬市教育委員会 木本 誠二氏

「播磨・玉丘古墳群の整備とまちづくり」 加西市教育委員会 立花聡氏

トークセッション 三宅正弘氏（武庫川女子大学） 牧田久氏（美馬市長）

パネルディスカッション 前園・立花・三宅・牧田・木本氏

コーディネーター 菅原康夫（徳島県教育委員会）

平成21年度 「古代王権のみち～文化財を活かしたまちづくり～」

日時：平成21年11月8日（日）

会場：鳴門市ドイツ館

参加者：130人

講演「文化遺産を考える－社会学の視点から－」

関西大学 山 泰幸氏

「古墳の成立と阿讃の首長」

大阪府立近つ飛鳥博物館 白石太一郎氏

報告「鳴門・板野古墳群の国史跡指定に向けた鳴門

市の取り組み」鳴門市教育委員会 森清治氏

パネルディスカッション

山・白石・森・三浦啓親氏（まちづくりサークル大麻）

コーディネーター 菅原康夫（徳島県教育委員会）



21年度シンポジウム

平成22年度 「とくしま・いにしえロマン～文化財でつなぐ夢街道～」

日時：平成23年2月12日（土） 会場：県立総合教育センター

参加者：200人

講演「徳島の遺産・地域の力～史跡・文化財と歴史資料～」

関西大学 藪田 貫氏

「徳島を歩いて古墳の成立を考える」

NHK 毛利 和雄氏

パネルディスカッション

藪田・毛利・白石太一郎氏（大阪府立近つ飛鳥博物館）・

水ノ江和同氏（文化庁）・勝浦康守氏（徳島市教育委員会）・

石井伸夫（徳島県教育委員会）

コーディネーター 近藤光男氏（徳島大学）

②夢街道交流企画展

平成20年度

日時：平成21年1月13日（火）～1月25日（日）

会場：美馬市脇町うだつの町並

展示テーマ「美馬の古墳と寺院－

古代モノメントの世界－」

来場者 358人

平成21年度

日時：11月7日（土）～11月23日（月）

会場：鳴門市ドイツ館

展示テーマ「鳴門・板野古墳群の世界」

来場者 870名



21年度交流企画展

平成22年度

日時：平成23年1月25日（火）～3月6日（日）

会場：県立埋蔵文化財総合センター

展示テーマ「文化財でつなぐ夢街道」

来場者 804名

③アワコウコ楽サポーター養成講座

平成20年度

第1回 7月27日（日） 県立埋蔵文化財総合センター 26名受講

第1講 「文化財を活かしたまちづくり－古墳整備と町並みの保存の取り組み

から－」 佐藤 晃一氏（京都府与謝野町教育委員会）

第2講 「明日香村にみる文化財と地域づくり」

和田 萃氏（京都教育大学名誉教授）

第3講 「あさんライブミュージアムとボランティアガイドの活動」
林 茂氏(板野町養護老人ホーム)

第2回 8月10日(日) 県立埋蔵文化財総合センター 25名受講

第1講 「城郭・墓所から考える徳島の可能性」
藪田 貴氏(関西大学)

第2講 「特別天然記念物を中心としたまちづくり」
松井 敬代氏(兵庫県豊岡市教育委員会)

第3講 「徳島市の史跡整備と活用」
瀧山 雄一氏(徳島城博物館)

第3回 9月7日(日) 県立埋蔵文化財総合センター 23名受講

第1講 「阿波の入り口・古代王墓のみち」
白石太一郎氏(大阪府立近つ飛鳥博物館)

第2講 「古代寺院の整備と活用」
木原 克司氏(鳴門教育大学)

第3講 「上板の歴史文化遺産ー上板町の取り組みを通してー」
樫山 昌史氏(上板町教育委員会)

第4回 10月18日 県立埋蔵文化財総合センター・板野町歴史文化公園
22名受講

郡頭の郷・西山谷2号墳石室における受講生ガイド実習

平成21年度

第1回 7月11日(土) 県立埋蔵文化財総合センター 34名受講

第1講 「美馬市の史跡の保護・活用と住民参加」
木本 誠二氏(美馬市教育委員会)

第2講 「文化財を活かした町おこしー伊丹郷町を中心にー」
中畦明日香氏(伊丹市教育委員会)

第3講 「文化資源の玉手箱とくしま」
三宅 正弘氏(武庫川女子大学)

第2回 8月22日(土) 県立埋蔵文化財総合センター 33名受講

第1講 「近世大名家墓所の中での蜂須賀家墓所ー蜂須賀家墓所の評価と活用
の前提としてー」
白石太一郎氏(大阪府立近つ飛鳥博物館)

第2講 「文化財を活かした町おこしー赤煉瓦建築の活用を通してー」
吉岡 博之氏(京都府舞鶴市教育委員会)

第3講 「徳島市の史跡の保護・活用と住民参加」
勝浦 康守氏(徳島市教育委員会)

第3回 9月27日(日) 県立埋蔵文化財総合センター 25名受講

第1講 「あさんライブミュージアムとボランティアガイドの活動」
林 茂氏(板野町養護老人ホーム)

第2講 「地域に根ざした歴史文化遺産」
石松 崇氏(兵庫県香美町教育委員会)

第3講 「明日香村にみる文化財と地域づくり」
和田 萃氏(京都教育大学名誉教授)

第4回 10月31日 史跡徳島城跡 24名受講

史跡徳島城跡・名勝旧徳島城表御殿庭園・城山貝塚における受講生実習

平成22年度

第1回 7月19日(月) 県立埋蔵文化財総合センター 45名受講

第1講 「地域歴史遺産の活用と地域連携・協働のあり方ー尼崎・富松城跡の
事例からー」辻川 敦氏(兵庫県尼崎市立地域研究史料館)

第2講 「昔の景観を知ること・活かすことーGISを用いた勝瑞城館跡の分析ー」
平井 松午氏(徳島大学)

第3講 「勝瑞の発掘調査成果と整備・活用」
重見 高博氏(藍住町教育委員会)

第2回 8月21日(土) 県立埋蔵文化財総合センター 34名受講

第1講 「ボランティアガイドとしての心構え」
正木 文子氏(脇町うだつの町並ウェルカム観光ガイド連絡会)

- 第2講 「失うことから始まったまちづくり船場城西の会」
中山栄一郎氏（NPO 法人歴史と出会えるまちづくり船場城西の会）
- 第3講 「徳島城下町における絵図などの資料の魅力と利用法」
根津 寿夫氏（徳島城博物館）
- 第3回 9月23日（木） 県立埋蔵文化財総合センター 43名受講
- 第1講 「古墳出現の歴史的意義ー鳴門・板野古墳群から考えるー」
白石太一郎氏（大阪府立近つ飛鳥博物館）
- 第2講 「板東俘虜収容所から見た人と物の交流」
川上 三郎氏（鳴門市ドイツ館）
- 第3講 「史跡の活用と住民参加ー大代古墳の一般公開ー」
矢金 満氏（大代古墳等歴史的文化遺産保存会）
「ばんどう門前通りの再発見ーまちづくりサークル大麻の活動ー」
三浦 啓親氏（NPO 法人まちづくりサークル大麻）
- 第4回 10月16日 鳴門市ドイツ館ほか
20名受講
板東俘虜収容所跡・ばんどう門前通りにおける受講
生実習



22年度受講生実習

- 平成18年度からの受講者 計191名
修了者 計124名
- ④アワコウコ楽スクールリーダー養成講座
- 平成20年度 修了者3名
- 第1回 7月23日（水） 県立埋蔵文化財総合センター
講義1 「歴史学習における地域教材の活用」
講義2 「歴史教材としての徳島県立埋蔵文化財総合センター」
実習1 「縄文土器づくり」
- 第2回 8月6日（水） 徳島市国府町
史跡巡検 徳島市考古資料館、矢野の古墳、宮谷古墳、阿波史跡公園等
- 第3回 8月20日（水） 県立埋蔵文化財総合センター
講義3 「歴史学習の流れと徳島県の文化財」
事例研究 「地域教材研究1・阿南市伊島の潜水器漁業」
実習2 「土器野焼き」
- 第4回 11月26日（水） 県立埋蔵文化財総合センター
報告会 「鳴門の歴史を再発見しようー考古学体験ツアーを通してー」
「川俣用水」
「地域の行事に根ざした美術科教育の実践ー阿波市伝統行事『やねこじき』に参加してー」
- 平成21年度 修了者3名
- 第1回 7月30日（木） 県立埋蔵文化財総合センター
講義1 「歴史学習における地域教材の活用」
講義2 「歴史教材としての徳島県立埋蔵文化財総合センター」
実習1 「縄文土器づくり」
- 第2回 8月6日（木） 徳島市国府町
史跡巡検 徳島市考古資料館、矢野の古墳、
宮谷古墳、阿波史跡公園等
- 第3回 8月18日（火）
県立埋蔵文化財総合センター
講義3 「歴史学習の流れと徳島県の史跡」
事例研究 地域教材研究1
「八万町の昔を探ろう」
- 任意参加 10月3日（土） 徳島市考古資料館
実習2 「土器野焼き」



21年度 史跡巡検

第4回 11月18日(水) 県立埋蔵文化財総合センター
報告会 「北島町の文化財から郷土の歴史を見つめよう」
「井川町の歴史」
「地名から中世をさぐる～土成町秋月の小地名～」

平成22年度 修了者3名

第1回 7月29日(木) 県立埋蔵文化財総合センター
講義「社会科・歴史学習における地域教材の活用」
演習 地域教材研究1「水軍の町に生きた水主たち
ーふるさと・いのち・未来へー」

第2回 8月9日(月) 徳島市八万町
実習「地域の文化財を探る」
地図・絵図・航空写真の検討と石像物・建造物等のフィールドワーク

第3回 10月29日(金)

報告会 「庄町に残る昔のもの」
「見つめてみようわたしたちのまち」
「八万の『むかし』をたどってみよう」

第2章 実施計画

I 活用要素

本計画では、各活用ゾーンの文化財等を、その性格から次の3分野・5要素に分類し、体系的に位置づけている。

1) 主要素・・・直接、計画の中心となりうる活用要素

1次要素 国史跡（国候補含む）・県史跡・市町村史跡及び活用ゾーンの趣旨に合致する埋蔵文化財

2次要素 活用ゾーン範囲内の博物館・資料館等

2) 副次的要素・・・主たる要素とはならないが、同一の活用ゾーン範囲内で、相互補完的に活用可能な史跡・埋蔵文化財

3次要素 活用ゾーンの趣旨に直接合致しないが、同一エリア内に所在する史跡・埋蔵文化財・文化的景観で、将来、他のゾーンとの関係等で活用可能なもの

3) 周辺的要素・・・史跡・埋蔵文化財以外の要素で、地域の歴史、文化を語るうえで、史跡・埋蔵文化財と一体的な活用を考慮しうる要素

4次要素 同一エリア内に所在する指定文化財、環境要素等

5次要素 同一エリア内に所在する便益施設、観光拠点等

3次・4次要素を盛り込んだのは、本計画の前身である「いにしえ夢街道基本計画」の策定段階で、各活用ゾーンのテーマ性・ストーリー性を大切にしながら、テーマとは直接に関係ない重要な歴史遺産等についても積極的に盛り込むよう、議論がなされたからである。また、5次要素についても、来訪者の便益を図るために盛り込んだ。

(1) 室町ロマンから藩政へのみち

当エリアは、「室町ロマン体感のみち」と「藩政探訪のみち」で構成される。「室町ロマン体感のみち」は、室町時代に阿波から畿内に進出した、細川氏と三好氏の勢力を物語る勝瑞城館跡と四国最大級の中世都市・守護町勝瑞遺跡からなる。また、「藩政探訪のみち」は、豊臣秀吉の片腕として活躍した蜂須賀小六正勝を祖とする徳島藩主蜂須賀家の領国統治の要である徳島城跡と徳島城下町跡からなる。守護町から城下町へ、吉野川河口をはさんで向き合う二つの町は、中世から近世に至る阿波の繁栄を現在に伝えている。

1) 室町ロマン体感のみち

名 称	要素	指定等	所 在 地
勝瑞城館跡	1次	国指定(平成13年)	藍住町勝瑞字東勝地
勝瑞発掘事務所・東勝地	2次		藍住町勝瑞字東勝地
見性寺	2次		藍住町勝瑞字東勝地
守護町勝瑞遺跡	1次		藍住町勝瑞
東勝地・観音寺	1次		藍住町勝瑞字東勝地
伝持明院跡	1次		藍住町勝瑞字東勝地
渡り	1次		藍住町勝瑞字東勝地
正貴寺跡	1次		藍住町勝瑞字正喜地
北千間堀・妙蓮寺橋	1次		藍住町勝瑞
阿弥陀橋	1次		藍住町勝瑞
船戸	1次		藍住町勝瑞
南陽神社	1次		藍住町勝瑞
西勝地・守護館推定地	1次		藍住町勝瑞字西勝地
地福寺	1次		藍住町勝瑞字西勝地
馬木の道標	1次		藍住町勝瑞字西勝地
若宮神社跡	1次		藍住町勝瑞字西勝地
寺町地区・伝見性寺跡	1次		藍住町勝瑞字西勝地
見性寺・三好家三代の墓	1次	町指定(平成8年)	藍住町勝瑞字東勝地
三好長輝像	4次	県指定(昭和31年)	藍住町勝瑞字東勝地
三好長基像	4次	県指定(昭和31年)	藍住町勝瑞字東勝地
藍住町コミュニティーセンター(藍住町役場)	5次		藍住町奥野字矢上前52-1
奥村家住宅	4次	県指定(昭和62年)	藍住町徳命字前須西172
藍の館	5次		藍住町徳命字前須西172
千光寺・臥龍梅	4次	町指定(昭和59年)	藍住町徳命
境内なぎ		町指定(昭和63年)	藍住町徳命
境内まき		町指定(昭和63年)	藍住町徳命
正法寺・本堂	4次	町指定(昭和59年)	藍住町矢上字春日
矢上の大クス	4次	町指定(昭和31年)	藍住町矢上

2) 藩政探訪の道(山辺の城下町)

名 称	要素	指定等	所 在 地
阿波おどり会館	5次		徳島市新町橋2丁目
瑞巖寺・庭園	1次		徳島市東山手3丁目
国瑞彦神社	1次		徳島市伊賀町1丁目
八幡神社・随臣門	1次	市指定(昭和38年)	徳島市伊賀町1丁目
モラエス通り	5次		徳島市伊賀町
モラエスの旧宅跡	5次		徳島市伊賀町3丁目
観音寺・本堂	1次	市指定(昭和45年)	徳島市勢見町2丁目
庭園	1次	市指定(昭和47年)	
忌部神社	4次		徳島市勢見町2丁目
金刀比羅神社・大灯籠	1次		徳島市勢見町1丁目
古美術骨董のみち	5次		徳島市大道・二軒屋町
眉山ロープウェイ	5次		
眉山公園	5次		徳島市眉山町
モラエス館	5次		徳島市眉山町

名 称	要素	指定等	所 在 地
平和記念塔・パゴダ	5 次		徳島市眉山町
かんぽの宿	5 次		徳島市眉山町
徳島藩主蜂須賀家墓所 万年山墓所	1 次	国指定（平成 14 年）	徳島市佐古山町諏訪山
佐古配水場	4 次	国登録（平成 9 年）	徳島市南佐古 6 番町
清水寺	1 次		徳島市南佐古 3 番町
諏訪神社	1 次		徳島市南佐古 2 番町
佐古川	5 次		徳島市佐古・南佐古
佐古旧道商店街	5 次		徳島市佐古・南佐古
三島神社の狛犬	1 次	市指定（昭和 38 年）	徳島市西大工町 5 丁目
寺町界限	1 次		徳島市寺町
天理教徳島支庁庭園	1 次		徳島市眉山町大滝山
春日神社	1 次		徳島市眉山町大滝山
錦龍水			徳島市寺町
海部はな墓所			徳島市寺町
伝東洲斎写楽墓所			徳島市寺町
高良斎墓所			徳島市寺町
モラエス墓所			徳島市西山手町

3) 藩政探訪のみち（水辺の城下町）

名 称	要素	指定等（年次）	所 在 地
徳島城博物館	2 次		徳島市徳島町城内
旧徳島城表御殿庭園	1 次	国指定（昭和 16 年）	徳島市徳島町城内
城山の貝塚	4 次	市指定（昭和 38 年）	徳島市徳島町城内
城山の礎痕	4 次		徳島市徳島町城内
徳島中央公園	5 次		徳島市徳島町城内
城山の原生林	4 次	市指定（昭和 38 年）	徳島市徳島町城内
徳島城跡・山城遺構	1 次	国指定（平成 18 年）	徳島市徳島町城内
平城遺構	1 次	国指定（平成 18 年）	徳島市徳島町城内
鷲の門	1 次	国指定（平成 18 年）	徳島市徳島町城内
徳島県青少年センター	5 次		徳島市徳島町城内
徳島市中央公民館	5 次		徳島市徳島町城内
三河家住宅	4 次	国指定（平成 19 年）	徳島市富田浜 4 丁目
ケンチョピア	5 次		徳島市万代町 1 丁目
中州みなと公園	5 次		徳島市中州町
菰翁美術館	5 次		徳島市新蔵町
徳島大学ギャラリー新蔵	5 次		徳島市新蔵町
徳島城下町遺跡 （城東高校地点）	1 次		徳島市中徳島町 1 丁目
福島橋	1 次		徳島市徳島本町 3 丁目
勢玉酒蔵	4 次	国登録（平成 11 年）	徳島市福島 1 丁目
藩政の松	1 次		徳島市中徳島町
徳島城惣構跡 （旧動物園地点）	1 次		徳島市中徳島町
徳島藩主蜂須賀家墓所 興源寺墓所	1 次	国指定（平成 14 年）	徳島市下助任町 2 丁目

名 称	要素	指定等（年次）	所 在 地
徳島城下町跡 （徳島城下町遺跡）	1 次		徳島市中前川町3丁目
県立文学書道館	5 次		徳島市中前川町2丁目
徳島城御花畑跡	1 次		徳島市徳島町城内
郷土文化会館 （阿波木偶資料館）	4 次		徳島市藍場町2丁目
藍場浜公園	5 次		徳島市藍場町1丁目
新町川親水公園	5 次		徳島市南内町
ひょうたん島クルーズ	5 次		

（２）古代政治のみち

優美な山容を見せる気延山の麓、鮎喰川が流れる徳島市国府町から名西郡石井町の一帯は、律令時代に国府や国分寺・国分尼寺等が置かれた、阿波の政治・文化の中心地であった。また、銅鐸が出土した矢野遺跡や、宮谷古墳・矢野古墳に代表される気延山古墳群など、当エリアは弥生時代から古代にかけて数多くの史跡が残る、阿波のまほろばの地である。

１）阿波のまほろば・国府のみち

名 称	要素	指定等	所 在 地
徳島市立考古資料館	2 次		徳島市国府町西矢野
矢野の古墳	1 次	県指定（昭和28年）	徳島市国府町西矢野
奥谷1号墳	1 次		徳島市国府町西矢野
阿波史跡公園	2 次		徳島市国府町西矢野
宮谷古墳	1 次		徳島市国府町西矢野
天石門別八倉比売神社	4 次		徳島市国府町西矢野
八倉比売神社古墳群	1 次		徳島市国府町西矢野
矢野城跡	4 次		徳島市国府町西矢野
阿波国分寺跡	1 次	県指定（昭和28年）	徳島市国府町矢野
阿波国分寺庭園	3 次	国指定（平成12年）	徳島市国府町矢野
矢野銅鐸出土地	1 次		徳島市国府町矢野
矢野遺跡	1 次		徳島市国府町矢野
阿波木偶館	5 次		徳島市国府町府中
大御和神社	4 次		徳島市国府町府中
徳島市天狗久資料館	5 次	国指定（平成14年）	徳島市国府町和田
阿波藍染め資料館 （長尾織布、岡本織布）	5 次		徳島市国府町和田
観音寺（四国霊場16番）	4 次		徳島市国府町観音寺
観音寺・敷地遺跡	1 次		徳島市国府町観音寺
阿波国分尼寺跡	1 次	国指定（昭和48年）	石井町石井字尼寺
日枝神社古墳群	1 次		石井町石井字白鳥
ひびき岩古墳群	1 次		石井町石井字白鳥
気延館	5 次		徳島市国府町矢野
地蔵院	4 次		徳島市名東町1丁目
穴不動古墳	1 次	市指定（平成14年）	徳島市名東町1丁目
八人塚古墳	1 次		徳島市加茂町東名東山
一宮城跡	3 次	県指定（昭和29年）	徳島市一宮町西丁
大日寺	4 次		徳島市一宮町西丁

名 称	要素	指定等	所 在 地
一宮神社・本殿	4次	国指定（平成5年）	徳島市一宮町西丁
国中神社・男神坐像	4次	県指定（昭和46年）	徳島市一宮町東丁
国中神社・如来形立像	4次	県指定（昭和46年）	徳島市一宮町東丁
常楽寺・降三世明王像	4次	市指定（平成13年）	徳島市国府町延命
常楽寺・薬師三尊十二神将像	4次	市指定（平成13年）	徳島市国府町延命
井戸寺・十一面観音像	4次	国指定（明治44年）	徳島市国府町井戸
井戸寺・日光菩薩 月光菩薩	4次	県指定（昭和33年）	徳島市国府町井戸
入田の瓦窯跡	1次	県指定（昭和28年）	徳島市入田町内の御田

2) 阿波のまほろば・山辺のみち

名 称	要素	指定等	所 在 地
阿波国分尼寺跡	1次	国指定（昭和48年）	石井町石井字尼寺
日枝神社古墳群	1次		石井町石井字白鳥
ひびき岩古墳群	1次		石井町石井字白鳥
尼寺古墳群	1次		石井町石井字尼寺
鳥坂城跡	1次		石井町石井字白鳥
ムクロジ群生地	4次		石井町石井字白鳥
石風呂	4次	町指定（昭和50年）	石井町石井字石井
山ノ神古墳群	4次		石井町石井字石井
農業大学校	5次		石井町石井字石井
高良山古墳群	1次		石井町石井字石井高良山
八倉姫神社古墳群	1次		石井町石井字石井
中王子神社	1次		石井町石井字石井
清成遺跡	1次		石井町石井字石井
石井町中央公民館	2次		石井町石井字石井
地福寺	4次		石井町石井字石井
石井城ノ内遺跡	1次		石井町石井字城ノ内
前山公園	5次		石井町石井字城ノ内
前山古墳群	1次		石井町石井字城ノ内
浄土寺・阿弥陀三尊来迎図	4次		石井町石井字城ノ内
浄土寺・伝兜率天曼荼羅図	4次		石井町石井字城ノ内
浄土寺・阿弥陀如来像	4次		石井町石井字城ノ内
曾我氏神社古墳群	1次		石井町石井字城ノ内
バクチノキ	5次		石井町石井字城ノ内
石井廃寺跡	1次	町指定（昭和30年）	石井町石井字城ノ内
蕨窯	5次		石井町石井字城ノ内
童学寺・薬師如来坐像	4次	国指定（明治44年）	石井町石井字城ノ内
下浦廃寺跡	1次		石井町浦庄字下浦

(3) 古墳から寺院への道

吉野川中流域の美馬市美馬町では、古墳時代後期に、段の塚穴をはじめとする多数の古墳が造られた。白鳳期には、県内最古の寺院、郡里廃寺が建立されており、こうした史跡は、古代の美馬一帯に、大きな勢力と独自の文化を持った豪族が存在したことを物語っている。一方、美馬市脇町は、近世から近代にかけて、藍と養蚕で栄えた町で、うだつの町並は往時の繁栄を現在に伝えている。

1) 古墳から寺院への道

名 称	要素	指定等	所在地
段の塚穴	1 次	国指定（昭和 1 7 年）	美馬市美馬町字坊僧
真鍋塚古墳	1 次		美馬市美馬町宗重
滝の宮経塚	3 次	県指定（昭和 3 5 年）	美馬市美馬町字滝宮
郡里廃寺跡	1 次	国指定（昭和 5 1 年）	美馬市美馬町字銀杏木
美馬郡衙推定地			美馬市美馬町
寺町地区	4 次		美馬市美馬町字願勝寺
願勝寺庭園	4 次	県指定（平成 1 0 年）	美馬市美馬町字願勝寺 8
美馬郷土博物館	2 次		美馬市美馬町字願勝寺 8
常念寺	4 次		

2) 美馬の後期古墳をめぐるみち

名 称	要素	指定等	所在地
北岡古墳	1 次	県指定（昭和 2 9 年）	阿波市北岡 74-2, 115-1
拝東古墳	1 次	市指定（昭和 4 9 年）	美馬市脇町字拝原
拝中古墳	1 次	市指定（昭和 4 9 年）	美馬市脇町字拝原
北原古墳	1 次		美馬市脇町字拝原
野村八幡古墳	1 次	県指定（昭和 5 3 年）	美馬市脇町野村 4 1 1 4
段の塚穴	1 次	国指定（昭和 1 7 年）	美馬市美馬町字坊僧
真鍋塚古墳	1 次		美馬市美馬町字宗重
平野古墳	1 次		美馬市美馬町字平野
海原古墳	1 次		美馬市美馬町荒川
荒川古墳	1 次		美馬市美馬町荒川
池月公園	5 次		美馬市美馬町字沼田
大国魂古墳	1 次		美馬市美馬町字東宮の上
八幡古墳群	1 次		美馬市美馬町字八幡

3) 脇町・近世体感のみち

名 称	要素	指定等（年次）	所在地
美馬市脇町南町伝建地区	4 次	国選定（昭和 6 3 年）	美馬市脇町字突抜町
吉田家住宅	4 次	市指定（平成 1 1 年）	美馬市脇町大字脇町 5 3
旅館たおか	4 次	国登録（平成 1 5 年）	美馬市脇町大字脇町字北町
稲田墓所	4 次	市指定（昭和 5 3 年）	美馬市脇町大字脇町 1 1 6 2
脇城跡	4 次		美馬市脇町字西城山・大屋敷
大谷川堰堤	4 次	国登録（平成 1 4 年）	美馬市脇町大字北庄
旧長岡家住宅	4 次	国指定（昭和 5 1 年）	美馬市脇町字猪尻字西上野
最明寺	4 次		美馬市脇町大字猪尻字西上野
脇町劇場	4 次	市指定	美馬市脇町大字猪尻字西分
猪尻地区歴史的町並	4 次		美馬市脇町大字猪尻
東林寺庭園	4 次	市指定（昭和 4 9 年）	美馬市脇町大字脇町

(4) 古代王権のみち

阿讃山脈の東麓、鳴門市から板野郡板野町の一帯は、古来より文物が行き来した阿波の玄関口である。人や物の交流を背景に、古墳時代のはじめには、数多くの古墳が築かれ、古代王権のみちとも言えるべき、古墳の集中地帯が生まれた。また、近世から近代にかけては、新たな交流の下

で、大谷焼や板東俘虜収容所など、独自の文化も育まれた。

1) 大代エリア

名 称	要素	指定等	所 在 地
大代古墳	1 次	県指定（平成13年）	鳴門市大津町大代
カニ塚古墳・尼塚古墳	1 次		鳴門市大津町大代
木津城跡	3 次	市指定（昭和38年）	鳴門市撫養町木津
土佐泊城跡	3 次	市指定（昭和38年）	鳴門市鳴門町土佐泊浦
岡崎城跡	3 次	市指定（昭和38年）	鳴門市撫養町林崎
福永家住宅	4 次	国指定（昭和51年）	鳴門市鳴門町高島
宝珠寺・木造薬師如来坐像	4 次	県指定（昭和30年）	鳴門市里浦町花面
正興寺・絹本着色 千手観音像	4 次	県指定（昭和42年）	鳴門市撫養町斎田字岩崎
長谷寺・紙本墨書 駅路寺文書	4 次	市指定（昭和35年）	鳴門市撫養町木津
長谷寺のオハツキイチョウ	4 次	市指定（平成7年）	鳴門市撫養町木津
撫養街道・廻路道	4 次		

2) 大谷エリア

名 称	要素	指定等	所 在 地
鳴門市森崎の貝塚	1 次	県指定（昭和49年）	鳴門市大麻町大谷
東林院穴観音古墳	1 次		鳴門市大麻町大谷
萬七の墓	3 次	市指定（昭和45年）	鳴門市大麻町大谷
大谷の藩墓跡	3 次	市指定（昭和45年）	鳴門市大麻町大谷
宇志比古神社本殿	3 次	国指定（平成12年）	鳴門市大麻町大谷字山田
東林院・木造弥勒菩薩坐像	4 次	国指定（平成14年）	鳴門市大麻町大谷字山田
東林院・絹本着色 阿弥陀尊来迎図	4 次	県指定（昭和34年）	鳴門市大麻町大谷字山田
大谷焼元山窯登窯外	4 次	国登録（平成14年）	鳴門市大麻町大谷字山田
大谷焼森窯登窯	4 次	国登録（平成15年）	鳴門市大麻町大谷井利ノ屑
大谷焼大西窯登窯外	4 次	国登録（平成15年）	鳴門市大麻町大谷字山田
本家松浦酒蔵場酒蔵群	4 次	国登録（平成14年）	鳴門市大麻町池谷字柳ノ本
撫養街道・廻路道	4 次		

3) 池谷・萩原エリア

名 称	要素	指定等	所 在 地
池谷宝蔵寺古墳	1 次	県指定（昭和33年）	鳴門市大麻町池谷
天河別神社古墳群	1 次	県指定（昭和33年）	鳴門市大麻町字滝ヶ谷
萩原墳墓群	1 次	国指定候補	鳴門市大麻町萩原
光勝院寺内遺跡	1 次		鳴門市大麻町萩原
春日神社古墳群	1 次		鳴門市大麻町萩原
ぬか塚古墳	1 次		鳴門市大麻町萩原
春日神社のスダジイ林	4 次	市指定（平成19年）	鳴門市大麻町萩原

4) 板東エリア

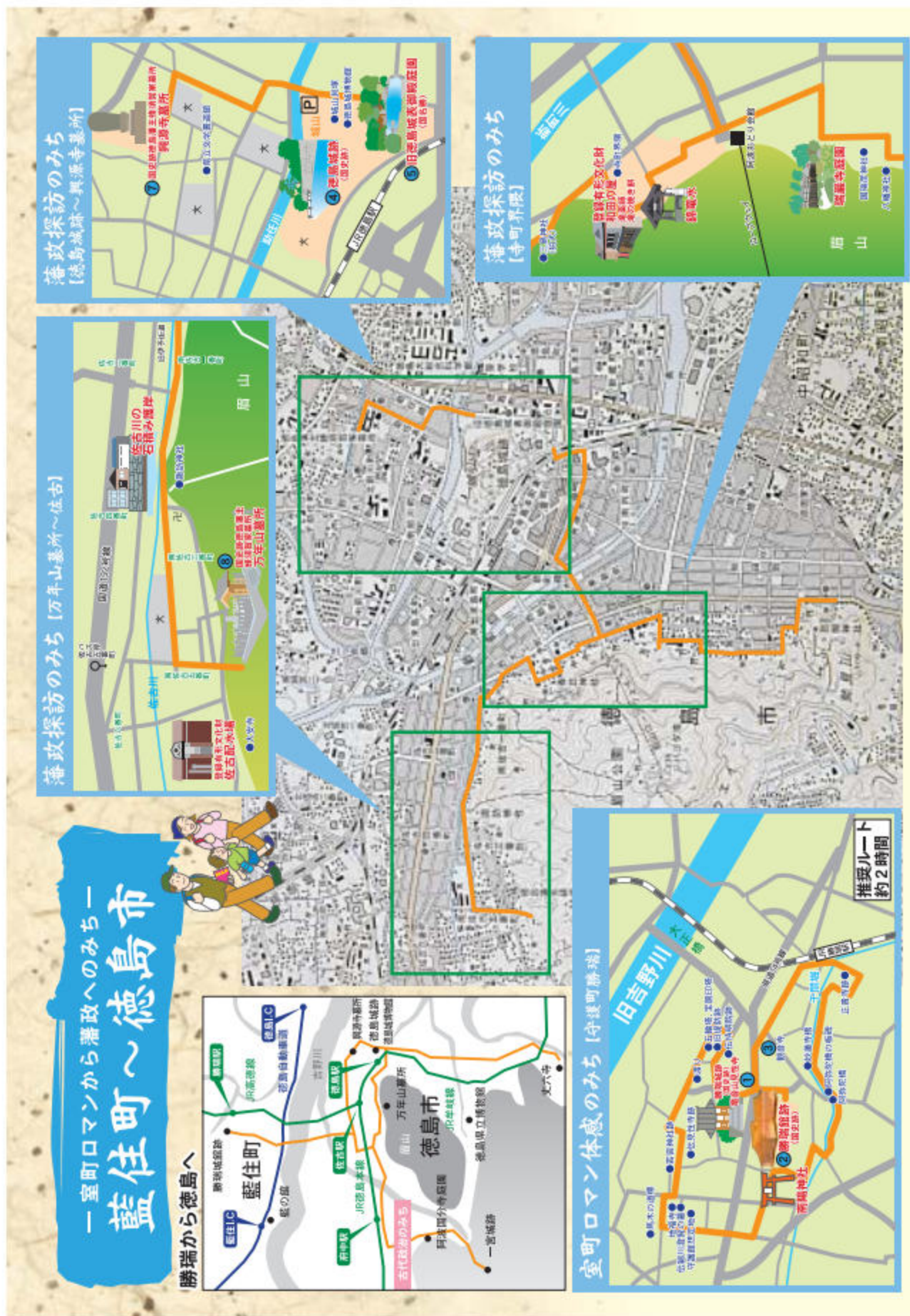
名 称	要素	指定等	所 在 地
ドイツ館	2 次		鳴門市大麻町板東
板東俘虜収容所跡	3 次	国指定候補	鳴門市大麻町板東
ドイツ橋	3 次	県指定（平成16年）	鳴門市大麻町板東

名 称	要素	指定等	所 在 地
ドイツ兵の慰霊碑	3次	県指定（平成18年）	鳴門市大麻町板東
船本家牧舎	3次	国登録（平成16年）	鳴門市大麻町桧字神ノ北
霊山寺	4次		鳴門市大麻町板東
大麻比古神社のクスノキ	4次	市指定（平成7年）	鳴門市大麻町板東
極楽寺の大杉	4次	市指定（昭和42年）	鳴門市大麻町桧
極楽寺・木造阿弥陀如来坐像	4次	国指定（明治44年）	鳴門市大麻町桧ダンノ上
極楽寺・阿鼻曼荼羅	4次	県指定（昭和48年）	鳴門市大麻町桧ダンノ上
道の駅第九の里（旧柿本家パラック）	5次		鳴門市大麻町板東
ばんどうの鐘	5次		鳴門市大麻町板東
賀川豊彦記念館	5次		鳴門市大麻町板東

5）板野エリア

名 称	要素	指定等	所 在 地
板野の愛宕山古墳	1次	県指定（昭和33年）	板野町川端字芦谷山
川端諏訪神社古墳1号墳	1次	町指定（昭和49年）	板野町川端字芦谷山
振袖地藏	1次		板野町犬伏字平山
青石の橋	1次		板野町犬伏字中
徳島県立埋蔵文化財総合センター	2次		板野町犬伏字平山
板野町文化の館	2次		板野町犬伏字東谷
板野町歴史文化公園	2次		板野町犬伏字東谷
大唐国寺跡	3次	町指定（昭和49年）	板野町川端字唐土谷
板野犬伏蔵佐谷瓦経塚	3次	県指定（昭和35年）	板野町犬伏字蔵ノ谷
金泉寺	4次	町指定（昭和49年）	板野町大寺
岡の宮の大クス	4次	県指定（昭和48年）	板野町大寺字岡山路

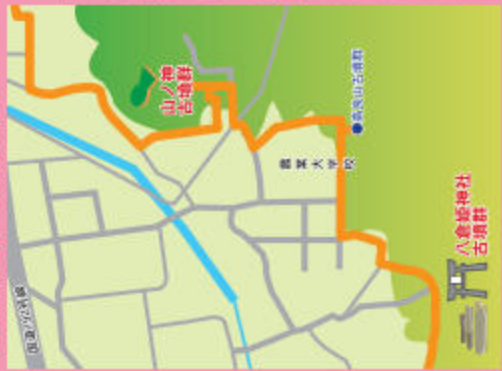
Ⅱ 活用ルート



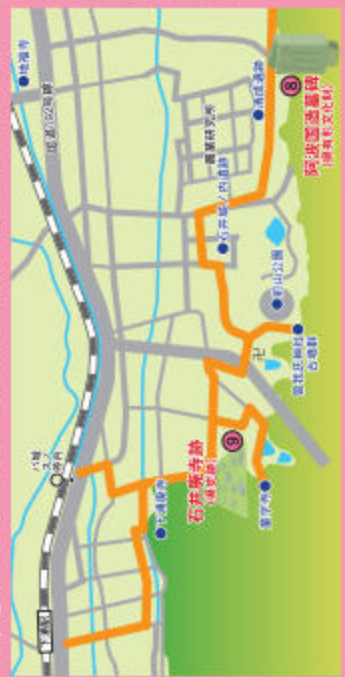
— 古代政治のみち — 国府町～石井町



阿波のまほろば・山辺のみち
[山ノ神古墳～八倉姫神社]



阿波のまほろば・山辺のみち [阿波国造基碑～下浦神社]



阿波のまほろば・山辺のみち [阿波国分尼寺跡～尾寺古墳群]



阿波のまほろば・国府のみち
[考古資料館～史跡公園周辺]

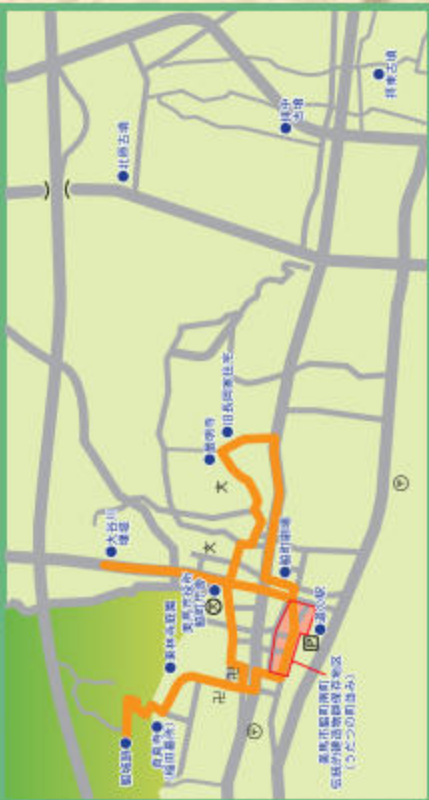


— 古墳から寺院へのみち — 美馬町～脇町



美馬町
から
脇町へ

古墳から寺院へのみち [美馬市脇町]



古墳から寺院へのみち [段の塚穴～郡里廃寺跡、寺町]



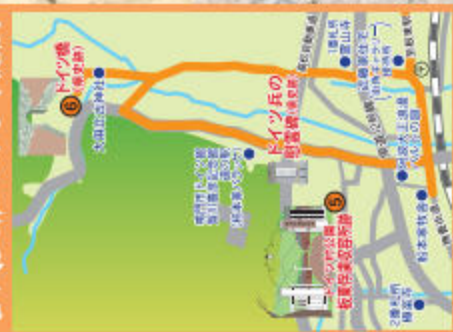
一 古代王権のみち一 鳴門市～板野町



古代王権のみち【大代】



古代王権のみち【板東】



古代王権のみち【大谷】



古代王権のみち 【池谷～萩原】

古代王権のみち【板野】



Ⅲ 整備計画

1

拠点整備

県内国史跡の整備状況・計画

(平成23年1月1日現在)

		8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30													
阿波国分 尼寺跡	公有地化	-----																																			
	調査			=====																																	
	整備											////////////////////																									
郡里廃寺跡	公有地化	-----																--																			
	調査										=====																										
	整備																////////////////////																				
段の塚穴	公有地化									-----																											
	調査																																				
	整備																																				
勝瑞城館跡	公有地化					-----											-----																				
	調査	=====																																			
	整備																////////////////////																				
蜂須賀家 墓所	公有地化								---																												
	調査									=====		=====		=====																							
	整備										////////////////////																										
徳島城跡	公有地化	完了																																			
	調査																																				
	整備																																				

※段の塚穴・徳島城跡の調査・整備については、未定である。

(1) 室町ロマンから藩政へのみち

1) 室町ロマン体感のみち

① 史跡勝瑞城館跡の整備

藍住町は国補事業により、史跡勝瑞城館跡の整備を進めている。平成13年1月の指定範囲のうち、会所・枯山水庭園エリアは平成23年度、礎石建物跡エリアは平成25年度に整備完了予定であり、その後は平成19年2月の指定範囲の整備に着手する予定である。



整備された会所建物

史跡公園としての供用についても、会所・枯山水庭園エリアは平成23年度、礎石建物跡エリアは平成25年度を予定している。供用開始時には、史跡公園内に仮展示施設をオープンさせる予定であり、「室町ロマン体感のみち」の拠点としても活用できる機能を持たせる。

② 「守護町勝瑞遺跡」の把握と保全

「守護町勝瑞遺跡」は、勝瑞城館跡を中心に、武家屋敷群・寺院・町屋や港・市場・街道などからなる都市遺跡と考えられ、国史跡として更なる追加指定も考えられる。しかし、その範囲は未だに明確には確定できていないことから、引き続き遺跡の確認調査を実施し、守護町勝瑞遺跡の全体像の把握に努めるとともに、適切な保存のあり方を検討する。

調査は国補事業として藍住町が実施し、県は財政支援を行うとともに、考古学・歴史学・地理学の専門家で構成する守護町勝瑞検証会議による、学際的な検討を継続する。

③ 史跡説明板の設置

藍住町は勝瑞城館跡の整備とともに、周辺の整備も進めていく予定であり、点在する史跡や文化財の説明板の設置を進める。説明板は既存のものにもQRコードを取り付け、平成21年度に構築した「勝瑞デジタル博物館」のシステムを活用するものとする。

④ 「勝瑞遺跡デジタル博物館」

徳島大学パイロット事業により構築した「勝瑞遺跡デジタル博物館」を継続し、インターネット上で勝瑞の魅力を発信する。

デジタル博物館は、地理情報データベースとして、市民が自ら地図を作成し、情報を共有することが可能な、双方向のGISシステムとし、住民からの情報を集積できるようにする。

⑤ 「勝瑞城シンポジウム」・イベントの開催

地元で活動している「藍住町歩こう会」などと連携し、地域住民が日常に活用するルートとしての整備を図る。さらに、勝瑞城シンポジウムを継続するとともに、史跡公園を会場としたイベントを開催する。シンポジウムやイベントの開催については、文化財ボランティアなど、地域住民の参画を図る。

2) 藩政探訪のみち（山辺の城下町）

①阿波おどり会館

阿波おどり会館は「山辺の城下町」ルートを中心に位置しており、拠点施設の一つとして、情報・サービス提供等の活用方策を検討する。当面は、活用マップを置いて訪問者の利用に供する。

②徳島藩主蜂須賀家墓所（万年山墓所）

徳島藩主蜂須賀家墓所は、徳島城北方の城下町に営まれた興源寺墓所と、眉山北麓の万年山墓所の両墓制をとる。平成14年に国史跡に指定され、平成16年に史跡整備検討委員会が発足し、平成19年度から整備が行なわれている。

万年山墓所は10代藩主重喜が造営した儒葬墓地で、墓域は眉山山頂付近から山裾に至る、広大なものである。万年山墓所では、藩主、正室、側室、子ども墓の修復及び復元が行われている。トイレ・休憩施設（ベンチ等）、万年山墓所の案内看板や説明板等の設置についても、整備の中で検討する。



万年山墓所

また、地域住民と連携しながら案内パンフレットを作成するとともに、ボランティアによる史跡案内を検討する。

③寺町界限

寺町界限は「とくしま観光ガイドボランティア」による散策ルートの一つとして、活用されている。今後、活用マップによって情報提供に努めるとともに、観光ガイドボランティアとの連携を図る。

将来的には、文化的景観の選定を含め、保全・活用の在り方を検討していくこととする。

3) 藩政探訪のみち（水辺の城下町）

①徳島城博物館

徳島城博物館を「水辺の城下町」ルートの中心拠点として位置づけ、活用マップを置くなど、訪問者の利用に供するようにする。

また、徳島城博物館で実施している市民講座・体験事業等の参加者が、ボランティアとして、ガイドやイベント等の活動に参加できるようにする。

②徳島城跡（徳島中央公園）

徳島城跡については、徳島市が「史跡徳島城跡整備委員会」において、保存管理計画の審議を進めている。保存管理計画の策定後、将来的に徳島市は整備を行う予定であるが、当面、城山山上部の石垣崩落箇所や崩壊の危険性の高い石垣の修復を検討する。



徳島城跡

なお、徳島城跡（徳島中央公園）には、旧徳島城表御殿庭園、城山の貝塚、城山の漣痕、城山の原生林があり、ボランティアの解説で周遊できる。多くの県民に利用していただけるよう、広報に努めるなど、充実を図る。

③徳島藩主蜂須賀家墓所（興源寺墓所）

興源寺墓所は藩祖家政から7代及び9代藩主の遺体が埋葬され、万年山墓所造営後は拝み墓となっている。

興源寺墓所は万年山墓所とともに、平成19年度から整備が行われている。助任緑地の一角にあり、トイレ・ベンチ等は整備されており、案内看板や説明板等の設置について、整備の中で検討する。また、案内パンフレットの作成や、ボランティアによる史跡案内についても検討する。



興源寺墓所

（2）古代政治のみち

徳島市国府町と名西郡石井町は、現代では別の行政区域となっているが、県下最大の古墳群である気延山古墳群は、両町にまたがって分布している。また、観音寺遺跡や敷地遺跡等の調査から、律令時代の国府が国府町に置かれたことは確実であり、国分寺は国府町、国分尼寺は石井町に所在していた。こうしたことから、国府町と石井町が一带となった活用が必要である。

1) 阿波のまほろば・国府のみち

①徳島市立考古資料館

阿波のまほろばゾーンの拠点施設であり、同ゾーン全体に係るインフォメーション機能、ガイド機能期待される。ゾーンの散策順路や見所、各遺跡の紹介をまとめた案内看板の設置について、徳島市公園緑地課及び指定管理者と協議する。

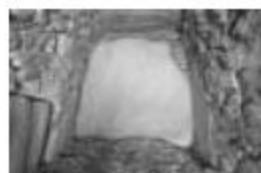
②阿波史跡公園

徳島市公園緑地課が管理しており、竪穴住居、高床倉庫などが復元された古代の邑からなる。公園内には気延山古墳群の主要部分が含まれ、古墳を散策するための拠点ともなる。活用マップの配布や案内看板の設置等を公園緑地課に要請する。

③気延山古墳群

気延山古墳群は徳島市域から石井町域にまたがり、総数が200を超えると予想される県下最大規模の古墳群であり、山塊東側の平野部に広がる阿波国府成立の経緯を考える上でも、全体像の把握が望まれる。国の評価も高く、史跡指定を視野に入れ、県・徳島市・石井町が連携

して、将来的には詳細分布調査や古墳の測量調査、範囲確認調査等を実施する。



矢野古墳

活用についても、県・徳島市・石井町の連携が必要である。徳島市域については宮谷古墳、奥谷1号墳、矢野の古墳等が阿波史跡公園内にあり、既に活用されている。また、主要な古墳については、矢野文化財保勝会により標柱が設置されている。当面、史跡めぐり等のイベントを継続するとともに、標柱に「いにしえ夢街道ロゴマーク」を貼り付けることを検討する。

④阿波国分寺跡

国分寺の境内地が県の史跡に指定されており、史跡の説明板が設置されている。昭和53年から3カ年にわたる範囲確認調査が徳島市教育委員会により実施され、方2町の寺域が推定されている。今後は、国の史跡指定を視野に入れた詳細調査の実施を検討する。

⑤阿波国府跡

一般国道路徳島南環状道路建設工事に伴う県の発掘調査、徳島市の重要遺跡確認調査及び開発対応の調査により、阿波国府の解明が進みつつある。出土遺物が県立埋蔵文化財総合センター、徳島市立考古資料館において展示されているほか、観音寺木簡の出土地点については、夢・ロマンの町国府協議会（当時）により、舌洗池に説明板が設置されている。この他、重要文化財突線装束文銅鐸が出土した矢野遺跡をはじめとして、現地における発掘調査成果の表示について、国土交通省に要請する。

2) 阿波のまほろば・山辺のみち

①阿波国分尼寺跡

国指定史跡である阿波国分尼寺跡は、国府のみち・山辺のみちの両ルートに含まれており、阿波のまほろばゾーンの拠点として位置づけられる。石井町は、「阿波国分尼寺跡史跡整備基本計画」（平成17年度策定）に基づき、史跡整備策定委員会の検討により、整備を進めており、平成32年頃までに、史跡公園としての供用を目指す。

なお、ガイダンス施設については、休校している石井小学校尼寺分校の校舎を活用することが検討されている。ガイダンス施設には、阿波国分尼寺跡をはじめとする阿波国府域に関する学習施設としての役割のほか、石井町域の他の文化財、いにしえ夢街道のルートなど、広域的連携による文化財活用に関する情報の提供を検討する。

ただし、整備は長期計画となるため、当面は文化財ボランティア組織を立ち上げ、史跡ガイドを行うとともに、史跡ウォーキングのルートに組み込むなどして、阿波国分尼寺跡の魅力を発信していく。



阿波国分尼寺跡

②気延山古墳群

気延山古墳群のうち、尼寺周辺に分布する日枝神社古墳群、ひびき岩古墳群、尼寺古墳群は、現在は墳丘などを確認できない。そのため、出土遺物については、国分尼寺跡の学習施設での展示を行うなどして、補足していく。

気延山古墳群西麓に位置する山の神古墳は、将来的には墳丘確認調査を行い、史跡指定などにより、石井町域を代表する古墳としてアピールしていく。

③高良山古墳群・八倉姫神社古墳群

八倉姫神社古墳群は現地で石棺が露出しており、文化財ウォーキング等で活用する。高良山古墳群は県立農業大学校の椿園内にあり、周辺の野鳥の森・桜並木とあわせて四季を感じさせる散策ポイントとしても活用可能である。現在は草が繁茂しているため、立ち入りが困難であり、環境整備について検討する。また、農業大学校移転後の見学方法等については、検討する。

④中王子神社（阿波国造墓碑）

県指定文化財である阿波国造墓碑は、中王子神社の御神宝として伝えられ、神社で保管されている。現在も神社に依頼すれば、見学は可能であるが、劣化の恐れもあり、保存・活用方法について神社に依頼し、検討する。

⑤石井廃寺跡

文化財ウォーキングなどを行うとともに、周辺のトレンチ調査を実施するなど、他の寺院施設の確認も考える。また、将来的には阿波国造墓碑などと連携させることにより、効果的なアピールを検討する。

（３）古墳から寺院へのみち

１）古墳から寺院へのみち（美馬地区）

①段の塚穴

平成１６年度から、美馬市が史跡指定地の公有化を行っており、現在約７割の公有化が完了している。今後も公有化を進め、指定地の公有化の目処がついた段階で、整備検討委員会を立ち上げ、その指導の下で発掘調査を実施し、発掘調査成果を反映させた史跡整備を行う。また、整備においては、墳丘の規模・形状を確認できるようにするため、墳丘上の樹木の間伐についても検討する。

本格的な史跡整備開始までの間は、史跡指定地内の環境整備（除草等）を行い、良好な環境で見学することができるよう努める。見学者対象の施設としては、標柱・説明板・遊歩道、簡易トイレの設置が完了しており、今後は休憩スペースの設置を検討する。



段の塚穴

②郡衙関連地名（郡衙跡推定地・駅・馬次）

郡衙跡については、所在地が特定できていないことから、今後、地形観察・地籍図分析・航空写真の活用等により、所在地に関する検討を行う。将来的には確認調査を実施し、関連遺構が検出されれば、保護措置をとり、郡衙推定地に関する考察がまとまった時点で活用ルート上に説明板等を設置する。

駅・馬次地名に関しては、馬次集会所の地名由来碑を活用するとともに、マップに表記して、地名由来についての説明を行う。

これらの見学ポイントが点在する旧撫養街道沿線には、伝統的工法によって建てられた民家や戦前からの洋風建築が散見されることから、今後、登録有形文化財への登録措置など、沿線の景観を保持する方策を検討していくこととする。

③郡里廃寺跡

史跡整備に必要な発掘調査は、平成22年度を目処に終了する予定である。その後、郡里廃寺跡整備検討委員会の指導により、発掘調査成果を反映させた史跡公園整備を行う。史跡公園の完成予定は、平成27年度である。

また、史跡整備事業の一環として、ガイダンス施設の設置を計画することとする。ガイダンス施設は郡里廃寺跡に関する学習機能に加えて、段の塚穴も含め、活用ゾーン全体の情報発信機能を持たせることを検討する。



郡里廃寺跡

④寺町地区

寺町地区については、活用ルートの起点として位置づけ、寺院が集中する現状を景観として保存していく方策を、まちづくりの中で検討する。

活用面からは、地区全体の概要や文化財の所在等がわかる「地区説明板・案内板」を整備するとともに、寺町案内人を母体に、美馬地区をガイドできるボランティア団体を組織する。

願勝寺については、県指定名勝である庭園の音声ガイドがある。このほか、境内に所在する美馬郷土博物館については、解説シートを置くほか、希望者についてはボランティアによる説明を行うなど、展示解説システムを整備する。

願勝寺・安楽寺・西教寺・林照寺については、寺が所有する文化資源等のうち公開・活用が可能なものを調査・整理し、寺町地区として一体的に周遊できる見学パターンを作成する。また、安楽寺の能舞台は、寺の協力を得ながら活用を検討する。

地区に隣接する「なんまつの丘」・「寺町親水公園」について、「なんまつの丘」は駐車場・休憩スペースとして活用し、「寺町親水公園」は休憩スペースとして、また郡里島交流会等のイベントと一体化して、有効に活用する。

⑤旧撫養街道の町並

旧撫養街道には、昭和の町並が残されており、指定物件ではないが、貴重な近代洋風建築も見られる。また、屋根に様々な道具瓦を施している家が多く、装飾性が外観に取り入れられてきた時代も考えたい。敷地内に入り見学することはできないが、道路上から見学可能であり、散策ルートとして活用していく。



撫養街道沿いの道具瓦

2) 美馬の後期古墳をめぐるみち

段の塚穴と同様の構造の石室を持つ古墳の多くが、旧美馬郡（美馬市・つるぎ町）に点在しており、「段の塚穴型石室」と呼ばれる。このなかには県史跡野村八幡古墳のように見学可能なものもあるが、一般家屋の敷地内に所在したり、石室が半壊状態にあるため、見学が難しいものもある。このため、保存措置や見学システムについて、検討を続ける。

3) 脇町近世体感のみち(脇町地区)

①美馬市脇町南町伝統的建造物群保存地区

当活用エリアの中心をなす文化財保存地区であり、建造物の保存修理や電線の地中化、吉田家住宅や脇町劇場オデオン座の公開・活用など、ハード面の事業がほぼ完了している。また、文化財ボランティアの活動も軌道にのっており、本県の文化財活用のモデルケースといえる地区である。

今後は、整備の進む同地区と、近接する脇城を中心とするエリアや舞中島エリアを有機的に結びつけ、一体的な活用を検討する。

②脇城跡

中世城館跡総合調査終了後の国史跡指定候補となっていることから、将来的には、調査検討委員会等を立ち上げ、山城部分の測量調査と平地城郭部のトレンチ調査を行うなど、指定の範囲に関する基礎的な資料を整えることとする。史跡指定後は、整備検討委員会等を立ち上げ、適切な整備方法について検討する。

史跡整備開始までの間は、指定地内の環境整備（除草等）を行い、良好な環境で史跡を見学することができるよう努める。史跡の活用には、史跡ガイドやイベント開催などを行うボランティアの育成が必要であり、ボランティア団体の育成に努める。

見学者対象の施設としては、標柱・説明板等を設置するとともに、将来的には、トイレ・休憩スペース等の便益施設の設置を検討する。

③稲田墓所

隣接する脇城と一括での国史跡指定の可能性を検討するとともに、指定後には、脇城と一体感のある整備方策を検討する。

現在、脇町稲田会が墓所を管理しており、説明板の設置、土壁の修復、除草など、良好な環境が保たれている。そのため、史跡指定までの当面の措置として、稲田会に維持管理を依頼する。

④舞中島の洪水対策集落

美馬市教育委員会が重要文化的景観への選定をめざし、平成21年度から23年度の計画で、調査等を実施している。今後、美馬市は景観計画を策定する中、舞中島の景観を適切に保全するとともに、選定後は説明板等を設置し、地域独自の文化遺産として周知していく計画である。また活用については、藍の生産地と集散地という関係性を活かし重伝建地区である脇町南町と連携した活用方策を検討する。

(4) 古代王権のみち

1) 大代エリア

①大代古墳

大代古墳の活用上の課題として、史跡指定地の中央部分が高速道路のトンネルの直上にあたるため、通常は立ち入ることができず、見学に際しては、西日本高速道路株式会社に対して「道路使用許可申請」が必要なことがあげられる。また、大代古墳への公的なアクセス道はなく、西日本高速道路株式会社の管理用道路からしか入ることができない。

こうしたことから、当面は県が大代古墳等歴史的文化遺産保存会に委託して実施している「大代古墳環境整備事業」を継続し、墳丘の環境整備を行うとともに、環境整備事業の一環として行われている「大代古墳一般公開」を充実させていく。また、保存会等の協力を得て、古墳登り口付近に、標柱及び説明板を設置する。



大代古墳

「鳴門・板野古墳群」が国史跡に指定された後は、鳴門市が大代古墳の管理団体となる予定である。大代古墳の本格的な整備は、指定後に鳴門市が検討することとなるが、その際、西日本高速道路株式会社にトンネル頂上部の道路占用許可を申請し進入路を確保する等、常時見学が可能なシステムを検討する。

②カニ塚古墳・尼塚古墳

大代エリアのサテライト(立ち寄りポイント)として位置づけ、標柱・説明板等の設置を検討する。この際、発掘調査の成果を盛り込み、大代古墳と密接な関係を持つ古墳としての位置づけを明確にしていく。具体的には、大代古墳一般公開時の立ち寄りポイントとして取り込んでいく。

③木津城跡・撫養街道

木津城跡についても、大代エリアのサテライト(立ち寄りポイント)として位置づけ、標柱・説明板等の設置を検討する。

また、撫養街道については、鳴門海峡・岡崎港方面から続く、阿波の入り口として捉え、ルートマップに盛り込むとともに、案内標識の作成等、現存する景観要素を活用する方策を検討していく。

2) 大谷エリア

古墳や建造物ばかりではなく、有形無形の文化財が密集する地域であり、大谷焼を中心としたものづくりの「わざ」を体感し、景観を散策できる周遊コースの設定を検討する。

3) 池谷・萩原エリア

特色ある墳墓・古墳が尾根単位で展開しており、阿波における首長墓の発生とその後の展開を理解できる、当ゾーンのメインとなるエリアである。

本格的な整備は、宝幢寺古墳、天河別神社古墳群、萩原2号墓が「鳴門・板野古墳群」として、国史跡に指定された後となる。整備においては、自然を残しつつも、古墳時代の眺望景観が確保できるような樹木管理や墳丘整備を検討する。また、エリア内に存在する3つの首長墓を周遊できる見学導線の整備を研究する。

①宝幢寺古墳

宝幢寺の敷地内に所在しており、見学ルートは確保できている。また、鳴門市教育委員会によって環境整備も行われており、低草に覆われた端正な墳形を確認することができる。本格的な整備の中で、説明板等の設置を検討するとともに、墳頂からの眺望景観が確保できるよう、関係者・関係機関と協議し、樹木の間伐等必要な措置を検討する。



宝幢寺古墳



天河別神社古墳群 1号墳（調査時）

②天河別神社古墳群

国史跡指定後の整備のなかで、1号墳、2号墳、3号墳、4号墳を周回できる遊歩道を整備するとともに、説明板の設置等を検討する。また、自然の森林の中に残る古墳のイメージを残しながら、墳頂からの眺望景観が確保できるよう関係機関と協議する。さらに、土砂流出等で形状が変化した古墳の墳丘復元等の整備を検討する。

③萩原墳墓群

墳墓群が民地（山林）内に所在するため、地権者の了解により、当面の措置として、説明板を仮設置するとともに、発掘調査時の進入路を再整備して、暫定的な見学ルートとして活用している。将来的には公有化を含めて、整備を検討する。

4) 板東エリア

板東俘虜収容所跡を中心とし、ドイツ橋や鳴門市ドイツ館などの収容所関連の文化財や、四国霊場1・2番札所、阿波一宮大麻比古神社などを廻る、もてなしと交流の心を体感できる整備を研究していく。

①板東俘虜収容所跡

鳴門市が平成24年度以降の国史跡指定申請を目指し、遺構確認調査等を実施している。指定後には整備計画の策定に着手するが、周辺の収容所関連遺産（ドイツ兵の慰霊碑、ドイツ橋、船本家牧舎、柿本家バラック）と一体となった整備を検討する。また、映画「バルトの楽園」のロケセット及びバラックの一部を移築して公開されている「バルトの庭」についても、協力依頼を検討する。



収容所跡発掘調査時

②ドイツ館

史跡・板東俘虜収容所跡のガイダンス施設的な機能を担う施設として位置づけ、従来からの機

能・活動を強化する。また、いにしえ夢街道「古代王権のみち」の情報発信基地として、また便益施設としての利用方法について検討する。

ドイツ館の敷地南側に隣接する「道の駅第九の里」についても、ドイツ館と同様に、サテライト（立ち寄りポイント）として位置づけ、効果的な活用方法を検討する。

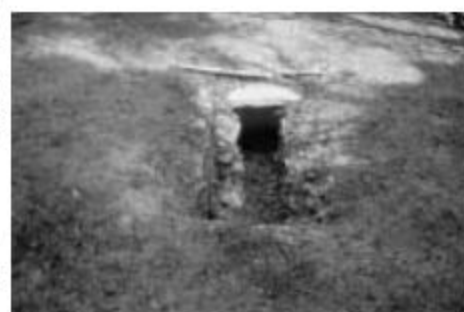
5) 板野エリア

当地区は、鳴門・板野古墳群の中で唯一板野町管内に所在するエリアである。エリア内の活用要素は、愛宕山古墳が所在する東部丘陵地と、文化施設が集中する西部丘陵地に大別することができる。

①愛宕山古墳

古墳時代前期末に築造された前方後円墳で、全長64mと県下屈指の規模を誇るが、前方部は土砂の流出が激しく墳丘の裾が不明瞭である。また、過去に測量調査・実測調査が行われているが、鳴門・板野古墳群の一つとして国史跡指定を目指すには、データが不足している。このため、将来的には、確認調査等の実施を検討する。

現在、墳丘には石室の保護柵及び説明板が設置されている。国史跡指定後の本格的な整備においては、墳頂部分からの眺望を確保するための樹木の間伐や見学ルートの設置を検討する。



愛宕山古墳

(5) 徳島県立埋蔵文化財総合センター

徳島県立埋蔵文化財総合センターは、埋蔵文化財の保存・活用により、県民文化の向上に資するため、本県の埋蔵文化財保護の拠点として設置された。

「いにしえ夢街道推進事業」においては、県立埋蔵文化財総合センターを広域活用ネットワークの中心拠点と位置づけ、「アワコウコ楽サポーター養成講座」等の研修会場として、多くの県民サポーターを受け入れてきた。

また、同センターのオフィシャルサイトを「夢街道オンライン」と名付け、県内の史跡、埋蔵文化財の情報発信に努めるとともに、活用ゾーンの特徴や県内の他の遺跡とのつながりが全体像としてわかる展示に努めてきた。さらに、県民等の要望に応じて、同センターが収蔵する出土遺物をはじめ遺跡データの貸出等を行い、埋蔵文化財の活用を支援してきた。

一方、公益財団法人徳島県埋蔵文化財センターは本県における唯一の埋蔵文化財の専門調査組織であり、指定管理者として県立埋蔵文化財総合センターの維持管理等にもあたっている。また、「いにしえ夢街道推進事業」に関連する諸遺跡の発掘調査を担当したのをはじめ、「アワコウコ楽総合講座」や「郷土文化教育教材整備事業」等を担当するなど、県と連携・協力して取り組んできた。

県は今後とも、県立埋蔵文化財総合センターを本県の史跡・埋蔵文化財の保護及び活用の拠点施設と位置づけるとともに、公益財団法人徳島県埋蔵文化財センターと連携し、展示資料の整備

や各種講座の充実など、4ゾーンをはじめ県内の史跡・埋蔵文化財を学ぶことができる事業を推進する。

2 動線整備

活用エリアにおいては、各市町が文化財ボランティアによる史跡ガイドシステムの構築を目指す。しかし、システム構築に時間を要することから、初めて訪れる訪問者が、独力でエリアを廻ることができるよう、活用マップを各所に配置するとともに、案内表示の設置を進める。

(1) 活用マップ

活用マップは、本書P17～P20に掲載のとおりである。著作権は「いにしえ夢街道県民会議（事務局：県教育委員会）」に属し、将来的に不足した場合には、各市町において増刷するものとする。

活用マップの配置先は、県庁・各市役所・町役場、各ゾーンの博物館・資料館・観光施設等に加え、徳島阿波おどり空港、JR主要駅、徳島総合観光案内所（JR徳島駅前）等にも依頼する。また、県、県立埋蔵文化財総合センター、各市町のHPからもダウンロードできるようにする。なお、各ゾーンの主な配置先（予定）は以下のとおりである。

「室町ロマンから藩政へのみち」

阿波おどり会館、モラエス館、徳島城博物館、徳島市中央公民館、県立文学書道館、あわぎんホール、とくぎんトモニプラザ（以上 徳島市）
勝瑞城館発掘調査事務所、藍の館、藍住町立図書館（以上 藍住町）

「古代政治のみち」

徳島市立考古資料館、徳島市天狗久資料館（以上 徳島市）
石井町中央公民館、いしいドーム（石井町）

「古墳から寺院へのみち」

美馬郷土博物館、美馬市観光文化資料館、道の駅「藍ランドうだつ」
美馬市立脇町図書館、道の駅貞光ゆうゆう館（以上 美馬市）

「古代王権のみち」

大津中央公民館、ドイツ館、道の駅「第九の里」、賀川豊彦記念館（以上 鳴門市）
県立埋蔵文化財総合センター、板野町文化の館（以上 板野町）

(2) 案内表示

県・市町の役割分担に基づき、国道・県道等の幹線道路及び市町道への「道路標識」の設置、民地への案内標識（街路標柱、擁壁標識、路面標示等）の設置を進める。

国道・県道については、県教育委員会が国土交通省並びに担当部局に設置を要請する。また、市町道については、各市町教育委員会が担当部局に設置を要請する。

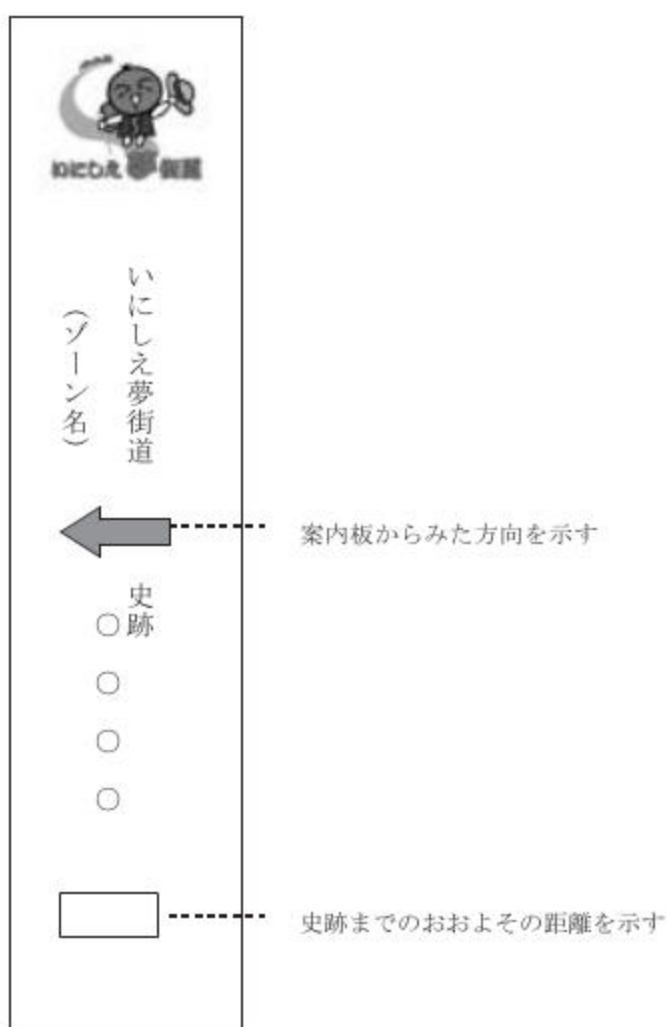
民地への案内標識については、各市町教育委員会が必要箇所を選定し、地権者に要請する。県教育委員会は各市町で必要な個数等を取りまとめ、文化庁等の国の補助金、県の補助金を活用できるように、検討する。

案内標識のデザイン等は景観に調和するものとし、具体的なデザイン・材質・大きさ等は設置場所や予算に応じて、各市町教育委員会が独自に勘案するが、標準モデルは次ページののとおりと

する。なお、既存のものがある場合は、設置者に依頼して活用し、「ロゴマーク」と「ゾーン名」を記入することとする。

標準モデル

標柱形



横看板形



(3) 街路整備

活用ルートの街路を対象とした、カラー舗装、石敷きなどゾーンイメージに適合した整備については、各市町が必要に応じて担当課と協議し、検討する。

3 ソフト事業

(1) 博物館・資料館との連携

博物館・資料館は、地域の文化財情報の発信拠点であり、かつ地域住民が文化財の活用に参加するための拠点ともなる。そのため、各ゾーンにおいて既存の博物館・資料館の活用を図るとともに、整備事業でガイダンス施設の建設を検討している場合は、いにしえ夢街道推進事業の趣旨を踏まえたものとなるよう、検討することとする。

1) 室町ロマンから藩政へのみち

①徳島城博物館

情報発信や住民参加の中心拠点とし、効果的な活用方法について検討する。

②勝瑞城館跡のガイダンス施設

勝瑞城館跡整備事業の一環で整備が予定されているが、この施設の活用については今後事業を進めるなかで検討を行っていくこととする。また、平成23年度には枯山水庭園エリアを史跡公園として供用開始予定であることから、それに伴い仮展示施設の整備も計画している。当面は仮展示施設で対応する。

2) 古代政治のみち

①徳島市立考古資料館

当面は徳島市立考古資料館を情報発信や住民参加の拠点とし、指定管理者と協議しながら効果的に活用する。また、現在行なっている学校向けの体験学習事業や地元向けのイベントなど、継続して実施できるよう努める。

②阿波国分尼寺跡ガイダンス施設

石井町は阿波国分尼寺跡の整備を平成32年度を目途に進め、整備の一環として遊休校舎(石井小学校尼寺分校)を活用してガイダンス施設を設置予定である。ガイダンス施設設置後は阿波国分尼寺跡を中心とした展示を行うほか、文化財活用事業および地域コミュニティ活性化の拠点施設として、文化財講座や地域交流イベントなどに供する。それまでは、石井町中央公民館を町内の文化財についてのガイダンス施設として活用する。

3) 古墳から寺院へのみち

美馬市は、郡里廃寺跡整備事業や既存施設の有効利用の検討などにより、ガイダンス機能を持った施設の設置を検討する。ただし、設置時期など詳細は未定であるため、当面の間は、市立脇町図書館や美馬郷土博物館で活用ルート上の文化財に関連した企画展などを開催することで、活用ゾーンの情報発信を図る。



美馬郷土博物館

4) 古代王権のみち

鳴門市では、大谷エリアで、大谷焼の各窯を拠点として周遊者の便に供する。池谷・萩原・板東エリアでは、ドイツ館を地域拠点として位置づけ、館が主催する各種行事、イベントと連携できるよう、担当課・指定管理者と協議する。

5) 県立埋蔵文化財総合センター



「いにしえ夢街道推進事業」の広域活用ネットワークの中心拠点である県立埋蔵文化財総合センターは、同センターのオフィシャルサイトを「夢街道オンライン」として活用し、関係市町教育委員会が主催する講座・体験会の開催等の情報を適宜発信している。今後とも、各ゾーンの中心拠点となる博物館・資料館等や関係市町教育委員会と連携を図り、「夢街道オンライン」による情報の発信に努めるとともに、活用ゾーンを総合するデジタルライブラリー（仮称バーチャル博物館）を構築するなど、情報発信の充実に努める。

また、県立埋蔵文化財総合センターは、収蔵する出土遺物や遺跡データ等の埋蔵文化財資料を保存管理しつつ、県民等の要請に応じて、適切な資料活用を行う。資料活用については、公益財団法人徳島県埋蔵文化財センターの文献データベースと連動させ、各活用ゾーンに関連する諸遺跡の調査報告書を適時活用できるようにする。

さらに、同センター職員の出張授業等を通して、学校や社会教育の場において、古代や歴史について学習する場を一層広げ、県民の文化財保護意識の高揚に努める。

(2) 文化財保護のための人材育成

1) 住民参加

史跡の活用は行政のみでできるものではなく、地域住民の参加が必要である。しかし、本県の現状は、文化財保存団体が活発に活動している史跡と、活動が環境整備に止まっている史跡、保存団体が存在しない史跡に分かれる。県は人材育成を図るため、「アワコウコ楽サポーター養成講座」を実施してきたが、各市町では、既存の団体に加え、「アワコウコ楽サポーター養成講座」修了生を核として、史跡活用に向けた住民参加を、平成25年度までの間に進める。

また、県は「いにしえ夢街道推進事業」の後継事業を計画しており、その中で文化財ボランティアの養成を継続する。さらに、県は県立埋蔵文化財総合センターや周辺を会場として開催される講座・体験会、各ゾーンの中心拠点となる博物館・資料館等及び関係市町教育委員会が主催する講座・体験会等の情報を把握・提供すること等により、ボランティア活動を支援する。

①室町ロマンから藩政へのみち

当エリアでは、住民参加の広域連携が進んでおり、徳島市教育委員会・藍住教育委員会・NPO法人新町川を守る会が実施した「吉野川で結ぶ徳島城と勝瑞城」では、「徳島城博物館ボランティア友の会」及び藍住町の文化財調査研究グループ「あいきょう」が、史跡散策ガイドを担当した。今後も、「吉野川で結ぶ徳島城と勝瑞城」の継続を含め、住民活動の広域連携を図っていく。

徳島市

既に「徳島城博物館ボランティア友の会」が徳島城博物館や徳島城跡を、「とくしま観光ガイドボランティア」が新町・寺町界限等でボランティアガイドを実施している。また、「万年山愛護会」は万年山墓所で環境整備活動に取り組んでいる。

万年山墓所では、今後、ガイド講習会を実施し、平成25年度を目途に、地域ボランティアを中心とした史跡ガイドができるよう、努力する。

藍住町

勝瑞城館跡は、整備されることにより町民の活動と交流の拠点となり得ることから、既存団体の活動促進の場として活用を図る。また新たに文化財の維持管理・活用に協力していただけの人材を育成・組織したり、学校への出前授業を実施するなど、藍住町独自のひとづくり・地域づくり・まちづくりを進めていく。こうした活動は随時行っていくこととする。

②古代政治のみち

将来的には、徳島市・石井町それぞれの文化財ボランティア団体が相互に交流し、一体的に活動できる組織作りを、県・市町・各団体の連携の中で考えていく。

徳島市

国府町を拠点に活動を継続的に実施している、各種の文化財ボランティア団体（こくふ街角博物館運営委員会・阿波史跡公園愛護会・矢野文化財保勝会・国府地区文化財保勝会・天狗久顕彰会）などと連携し、阿波のまほろばゾーンの活用を図っていく。

石井町

アワコウコ楽サポーター養成講座修了生を中心としてボランティア団体を立ち上げ、ガイドの養成・研修や、町内の諸団体との連携を図る。

ボランティア団体は当面、ウォーキング等のイベントを町とともに運営し、各人が経験・ノウハウを蓄積するほか、文化財講座などを通して地域の文化財についての知識・理解を深める。ある程度ボランティアが成熟した段階で、見学希望者から依頼を受けての史跡ガイドやボランティア団体主催のイベント開催など文化財活用事業の主体を行政から団体に移行し、地域住民主導での文化財活用を目指す。

③古墳から寺院へのみち

美馬市が実施している寺町の寺宝公開・歴史ウォーキングなどの活用イベントへの運営協力を募り、美馬市と共同でこれらのイベントの企画・運営を行う。また、イベントの企画・運営協力者と県の「アワコウコ楽サポーター養成講座」修了者を中核として、ボランティア団体の設立を図り、イベントの企画・運営の主体をボランティアガイド団体へ移行するとともに、地区のガイド研修を行う。将来的には、見学希望者の依頼により、ボランティアガイドを開始する。また、市主催事業の学校出前授業などについても、ボランティアガイドと共同での取り組みを検討していく。

④古代王権のみち

鳴門市

鳴門市エリアでは、大代古墳等歴史的文化遺産保存会、宝幢寺古墳保存会、大麻池谷地区文化財保存会、ばんどう門前通り協議会が活動している。これらの団体を母体として、県の「アワコウコ楽サポーター養成講座」修了者を加え、文化財ボランティア団体の結成を働きかける。また、なると観光ボランティアガイド組織とも協力しながら活動方策を検討していくことも有効であることから、今後の課題としたい。

板野町

板野町では、地元の文化財を誇りとし、護り、活用し、周知できるような文化財保護グループの育成が課題である。文化財保護審議委員や、県の「アワコウコ楽サポーター養成講座」修了者を中心に、文化財保護グループの育成を図る。

⑤県立埋蔵文化財総合センター

県立埋蔵文化財総合センターの指定管理者である公益財団法人徳島県埋蔵文化財センターは、平成22年度より、県の「アワコウコ楽サポーター養成講座」の修了者や受講生を対象とした「ボランティア応用講座」を開設し、文化財保護のための人材育成を行っている。県は平成23年度以降も「アワコウコ楽サポーター養成講座」の後継講座を行い、文化財ボランティア（アワコウコ楽サポーター）による文化財保護の活動ができるよう、支援にあたる。

2) 学校教育との連携

県は、これまで「郷土文化教育教材整備」事業、アワコウコ楽スクールリーダー養成講座、県立埋蔵文化財総合センター職員の出張事業等により、学校教育における史跡・埋蔵文化財の活用を図ってきた。

平成22年度には、学校教育における芸術文化や文化遺産に関する教育、すなわち文化教育の充実を図るため、文化財課が教育文化政策課に改組された。22年度当初には、学校における芸術文化・文化遺産に関する活動状況の調査を行ったが、今後とも学校のニーズを把握し、史跡・埋蔵文化財を素材とした教材の開発、教員研修の実施に努める。また、県の「芸術文化・文化遺産人材バンク」に史跡・埋蔵文化財に関する授業が可能な人材を登録するとともに、各市町においても、学校の依頼により、文化財担当職員が管内の小中学校で出張授業を実施する。

県立埋蔵文化財総合センターは、校外学習の場として展示室などの見学の他、勾玉づくりや火おこし等の古代体験のプログラムを提供し、歴史や文化財に対する興味・関心を高めている。また、同センターは、教材の貸出や古代体験活動を含む出張授業など、学校からの要請・問い合わせに対し、公益財団法人徳島県埋蔵文化財センターやボランティア団体（アワコウコ楽サポーター）と連携して応えるよう努める。

※「芸術文化・文化遺産人材バンク」

県が平成23年度からの事業化を計画している。芸術文化や文化遺産に関する知識・技能を持つ人を教育文化政策課に登録して広く周知し、学校からの要請により派遣して、文化教育の振興を図る。

4 年次計画

※各年次計画において、

————→ は事業を実施または計画しているもの、 -----> は検討しているものを示す

(1) 拠点整備

1) 室町ロマンから藩政へのみち

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度～
勝瑞城館跡の整備	————→			————→ 19年2月指定範囲の整備
	会所・枯山水庭 庭園エリア供用		礎石建物跡 エリア供用	
守護町勝瑞遺跡の調査	————→			
史跡説明板の設置	————→ 設 置			
蜂須賀家墓所 修復整備 説明板 案内パンフレット	————→			

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度～
徳島城跡	-----> 保存管理計画 の策定	-----> 整備計画の検討		

2) 古代政治のみち

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度～
徳島市立考古資料館 案内看板・標柱	-----> 設 置			
気延山古墳群調査 (徳島市管内)	-----> 検 討			
気延山古墳群標柱設置	-----> 設 置			

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度～
阿波国府跡開発対応調査				
阿波国府跡説明板	設置要請			
阿波国分尼寺跡整備				
案内看板・標柱	-----> 設 置			
気延山古墳群調査 (石井町管内)	----->			

3) 古墳から寺院へのみち

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度～
段の塚穴	-----> 公有地化, (整備検討委員会)			
郡里廃寺跡	→ 整 備 (調査を含む)			
舞中島洪水対策集落	調 査	→ 景観計画の策定		

4) 古代王権のみち

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度～
大代古墳 一般公開	→ 継続 (史跡指定後に整備活用を検討)			
カニ塚古墳・尼塚古墳 木津城跡・撫養街道	-----> 標柱・説明板の設置			

5) 県立埋蔵文化財総合センター

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度～
施設・設備の充実	→ 継 続			

(2) 動線整備 (各部会共通)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度～
活用マップ	配布	-----> (必要により増刷)		
道路標識	担当部局等に設置を要請	-----> (設 置)		
案内標識	必要箇所選定 補助金申請	-----> (設 置)		

(3) ソフト事業

1) 室町ロマンから藩政へのみち

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度～
勝瑞遺跡デジタル博物館	----->			
勝瑞城シンポジウム	----->			
勝瑞城館跡ガイダンス施設	仮展示施設 供用	----->		

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度～
徳島城博物館	-----> 講座・体験事業参加者のボランティアへの移行			
蜂須賀家墓所(万年山)	-----> ガイド講習会の実施		-----> ボランティアガイドの実施	

2) 古代政治のみち

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度～
徳島市立考古資料館	-----> 指定管理者と協力して体験事業等を実施			
阿波国分尼寺跡 ガイダンス施設	-----> 石井小学校尼寺分校に設置を検討			

3) 古墳から寺院へのみち

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度～
美馬郷土博物館	企画展の開催，郡里廃寺跡ガイダンス施設の検討			

4) 古代王権のみち

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度～
県立埋蔵文化財総合センター	情報発信拠点，便益施設として活用			

5) 県教育委員会

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度～
いにしえ後継事業	実 施			
ボランティア養成講座	継 続			
夢街道オンライン (県立埋蔵文化財総合センター公式HP) (バーチャル博物館)	継 続			
発掘とくしま (センター委託)	継 続			

「いにしえ夢街道推進事業」実施計画

平成23年3月28日発行

編集・発行 徳島県教育委員会

印刷 濱田印刷有限公司